

ヘラクヌギカメムシ

昼食を食べているテーブルの上にカメムシが止まっていました。細身で大きさは10ミリ余り。薄緑の身体で脚はピンクで美しいのです。画像の記録は2015年11月13日11時58分でした。初雪が来て数日経過、前日までの氷雨つづきだったので虫に逢えるとは思ってもいなかったもので、嬉しいことでした。

帰路のカーラジオで気温10℃だったのですが、雲ひとつない快晴で風も凜ぎ、チェーンソーでの薪用玉切り作業では汗をかいた程の陽気にさそわれての出来事で、幸運でした。



帰宅して調べた結果ヘラクヌギカメムシと判明しました。そっくりなサジヌギカメムシというのが図鑑では並べてありますが、サジはカシワにつくようで、ヘラはミズナラとのこと。ここ澄川はミズナラだらけでカシワはありませんので、ヘラクヌギカメムシと判断しました。区別は交尾節の突起の形がヘラはヘラ状、サジはサジ状であることで区別されているので、この出会いでは捕まえてお尻を検分していませんが、状況からミズナラ派のヘラと決めてよいと思います。脚色はもともとは緑なのです。秋になるとピンクになるらしいのです。ミズナラの葉の緑の中では脚まで緑色だと保護色です。見つけるのは困難です。この時節のミズナラはすっかり落葉を済ませているので緑脚だと保護色になりません。それで緑色を消したのでありましょう。

一段大きく括られるクヌギカメムシ科の分布は日本を含むアジア地域とかなり広いようで、7属80種もいるようです。内日本には2属5種が報告されているとのこと。さらにカメムシ類と大きく括りますと、世界には40,000種以上もいて、日本に限っても1,500種余が知られているとのこと。凄い繁栄ぶりでありました。

この日は参加者が多くて、これから冬に整理伐採をする外来樹ニセアカシヤのマーキング班、



標準樹選定班、前期に伐採したニセアカシヤ材の搬出とその材での薪づくり班の3班に分かれての作業となりました。薪づくりでは、玉切り組と薪割り組とで時間一杯汗をながしましたが、搬出材が溜まるばかりで、次回以降も薪づくりは続くこととなります。花から香りの良い美味しい蜂蜜がとれる材なので燃やすと良い匂いだといいですね。